

令和7年度 第2回 長崎市DX推進委員会

日時 令和7年10月24日（金）15：00～16：30

場所 市役所7階 大会議室C

結果

議題1 各委員のDXに関する取り組みについての紹介

- 委員より、自らのDXに関する取り組みについての紹介があった。
- 事務局より事前に委員に回答していただいたアンケートに基づいた、DXに関する取り組みについての紹介があった。

議題2 その他

- 事務局から、次回のDX推進委員会について説明があった。

主な質疑等

議題1 各委員のDXに関する取り組みについての紹介

取り組み事例①

委員：代表を務める会社にDX推進室を設置した。経費精算や勤怠管理をクラウド化し、テレワークが可能となる環境を構築。付帯業務を省力化することができた。
マイクロソフト 365、SFA（営業支援システム）、生成AIなどを活用している。

委員：デジタルツール活用の社員への浸透について伺いたい。

委員：研修やセミナーを開催しているが、個人差がある。20代、30代の社員は自ら活用している。

事務局：委員より事前アンケートにて押印廃止についてご意見があったため、長崎市における取組状況を説明させていただく。令和2年度に全庁的に見直しをした。当時の整理では、申請書関係の押印は廃止したが、会計関係、補助金関係の書類は引き続き押印が必要とした。その結果、手続関係の申請3,300件のうち、約67%の押印を廃止した。昨今の社会情勢等を踏まえ、今年度改めて押印廃止について検討を進めている。

委員：押印廃止について、可及的速やかに進めていただきたい。

取り組み事例②

委員：電子決済のみが使用可能となっている店舗に対して、高齢者は抵抗を感じている。高齢化が進む長崎において、このような現状をどう変えるか検討する必要がある。

DX化を進めたいと考えているが、導入の仕方がわからない。DX化することで手間が増えると考えている経営者が多くいる。それに対してどのように支援するかが課題である。

店舗にてキャッシュレス決済を導入する際に、導入コスト、決済手数料を忌避する経営者が多い。

これらは、学習・導入コストの高さ、心理的安全性から変化を避けるという点で共通している。これに対して、行政、産業全体がどう支えるか検討する必要がある。

委員：現状として、生まれた時からデジタル技術に触れているデジタルネイティブと高齢者との差が大きくなっている。

委員：高齢者はスマートフォン決済を難しいと感じている。

委員：自治会ではスマホサロンなどで少しずつスマートフォンについて勉強している。

委員：ユーザーインターフェースの設計次第ではデジタル技術に慣れていない人でも利用しやすくなると考えている。

取り組み事例③

委員：産学官で連携し、データによる課題解決とデータ活用人材を育成することを推進するセンターを大学に設立した。様々なリソースが集まり、交流するハブをつくることで、新たな産業と賑わいの創出を目指す。行政が持っているデータに民間企業は興味があり、データバンクに預けることで活用することができる。行政が各テーマに協賛することで、民間企業のモチベーションに繋がるため、協力を検討していただきたい。

事務局：長崎市としてもデータの利活用促進を進めているところであり、ぜひ連携させていただきたい。庁内で利用可能なデータについて検討する。

取り組み事例④

委員：生成 AI を積極的に活用しており、AI 活用についてのセミナーの開催も行っている。

委員：AI 活用セミナーについて、どのような方が来られているのか。

委員：長崎でビジネスを行っている方、業務で AI を使用する方を対象としている。

委員：参加者の所属する組織では AI の活用を認めていると主催者側から見て感じているか。

委員：リスクを鑑みた AI 使用の可否について判断ができていない経営者は多いと感じる。

各委員のDXに関する取り組みについて事務局から代理にてまとめて紹介

取り組み事例⑤

事務局：オンラインを利用した関係機関との会議や研修、AI を活用した効率化などに取り組んでいる。今後は電子決算、アプリの活用、災害時用安否確認ツールの作成に取り組みたい。課題としてシステム等のコスト、IT に不慣れな職員に対するサポート、セキュリティへの不安がある。

取り組み事例⑥

事務局：観光客のスマホの位置情報等の人流データを使い、観光客移動情報の把握、分析、活用などを行っている。また、得られたデータをもとに長崎市観光統計を作成している。課題として、位置情報等については、データ購入費・利用料等が高いことが挙げられる。

取り組み事例⑦

事務局：レセプトオンライン請求を実施している。また、あじさいネットによる病診連携を普及させるため、市医師会・県医師会として取り組んでいる。電子処方箋に関しては準備を進めているが、操作が面倒であり、時間が限られる外来診療中に操作できるかを懸念している。課題として、設備費用の捻出がある。

取り組み事例⑧

事務局：国交省の地域公共 DX：MaaS2.0 のプロジェクトに採択された「SIM レスバス停開発プロジェクト」に取り組んでいる。課題として、IT リテラシーにばらつきがある社内において、特に現場賛同・協力者を得ることに苦労している。

取り組み事例⑨

事務局：オンライン会議を行うことで移動時間がなくなり、費用削減につながっている。課題として、DX 担当部署がないため、人材育成が急務となっている。

議題 2

特になし